

第5回 香川レインボー映画祭 実施報告書

香川レインボー映画祭実行委員会

代表：藤田博美

(第5回香川レインボー映画祭実行委員長)

〒760-0032 高松市本町 4-12-205 代表電話番号：090-1320-9050

映画祭メールアドレス：info@kagawa-rff.org

1. 実施概要

日程	2009年10月11日(日) 10:30~19:30
会場	e-とぴあ・かがわ BBスクエア (高松サンポート・シンボルタワー4階)
料金	前売り券：1回券 1,000円、2回券 1,800円 当日券：1回券 1,200円、2回券 2,000円 障害者とその介助者1名半額(すべて税込)
主催	香川レインボー映画祭実行委員会
後援	RSK山陽放送、RNC西日本放送、朝日新聞高松総局、e-とぴあ・かがわ、e-とぴあクラブ協議会、FM香川、FM81.5、OHK岡山放送、香川こまち、KSB瀬戸内海放送、産経新聞高松支局、山陽新聞社、四国新聞社、高松市、高松市教育委員会、高松リビング新聞社、TSCテレビせとうち、TJ Kagawa、ナイスタウン出版(株)、毎日新聞高松支局、読売新聞大阪本社
協賛	(株)カマメ讃岐(香川)、(有)植松工務店(香川)、(株)ゴーフールド(香川)、JEANS FACTORY(高知)、医療法人社団湯浅クリニック(香川)、PROUD in 香川(香川)、合同会社輪々社(岡山)、(有)KYKプランニング(香川)、Bar次元(香川)、カフェ&ライブ Slow Step(香川)、SUMUS Cafe(香川)、BAIBiCAN(香川)、QWRC(大阪)、ディスクインロッキー(香川)、ブレークスルー(香川)、やきとり酒房まるいち(香川)、cafe de flots(香川)、pop up laboratory(香川)、ジャパンメディカル(東京)、DEN cafe(岡山)、アデージョ達のenvy night(香川)、ファンタジー(香川)、Kyōrata(岡山)、Ehime Gay Walker(愛媛)、L.s.E(愛媛)、CARMEL(岡山)、(有)スタジオスタッグ(東京)、 物品供与：(株)伊藤園高松支店(香川)

2. プログラム内容

▼10:25~開会式(無料)

エアロ・モモ ダンスパフォーマンス

実行委員長 挨拶

▼10:30~【BOTH】上映

▼12:15~【TOPLESS/トップレス】上映

▼14:10~【トークショー】(無料) 司会：ANNRI

「TOPLESS/トップレス」監督・内田英治氏、同主演女優・清水美那氏

▼14:40~【インディーズ短編6作品】上映

▼16:00~【ドラッグ・キング北米ツアー】上映

▼17:30~【ヨコヅナ・マドンナ】上映

▼19:26~閉会式

閉会の挨拶 実行委員長、副委員長

3. 観客動員

BOTH : 44 人 (座席稼働率 44.9%) *座席数は 98 席として計算。

TOPLESS/トップレス : 58 人 (座席稼働率 59.2%)

トークショー : 70 人 (座席稼働率 71.4%)

インディーズ短編 6 作品 : 49 人 (座席稼働率 50.0%)

ドラッグ・キング北米ツアー : 23 人 (座席稼働率 23.5%)

ヨコヅナ・マドンナ : 43 人 (座席稼働率 43.9%)

総入場者 : 287 人 (うち招待客 46 人)、2 回券の再入場込み

4. チケット売上げ枚数

2 回券 : 前売り券 16 枚、ローソンチケット 21 枚、フライヤー券 24 枚、
当日券 13 枚、 計 74 枚

1 回券 : 前売り券 9 枚、ローソンチケット 8 枚、フライヤー券 11 枚、
当日券 13 枚、 計 41 枚、

合計 115 枚

5. 広報活動

1) チラシ

・プレチラシ (簡易版として 2 月から配布) : 1,000 枚 (A5 サイズ : 両面白黒)

・チラシ : 5,000 枚 (A4 サイズ : 両面カラー)

・フライヤー : 8,000 枚 (A6 サイズ : 片面カラー、裏面白黒広告)

8 月から 10 月にかけて、中四国を中心として関連団体、イベント、飲食店、
ショップ、公共施設、大学等、計 260 か所以上に配布。

2) ポスター

300 枚 (B3 サイズ : 片面カラー) チラシと共に配布。

3) ウェブサイト

公式 HP <http://www.kagawa-rff.org/>

4) 新聞掲載

朝日新聞、四国新聞オアシス、四国新聞、毎日新聞、リビング高松、他

5) 雑誌掲載

月刊ナイスタウン、月刊バディ、月刊 TJ Kagawa、月刊香川こまち

6) ラジオ出演

FM81.5、RNC 西日本放送

7) その他

かがわ文化芸術祭 2009 のパンフレットに掲載。

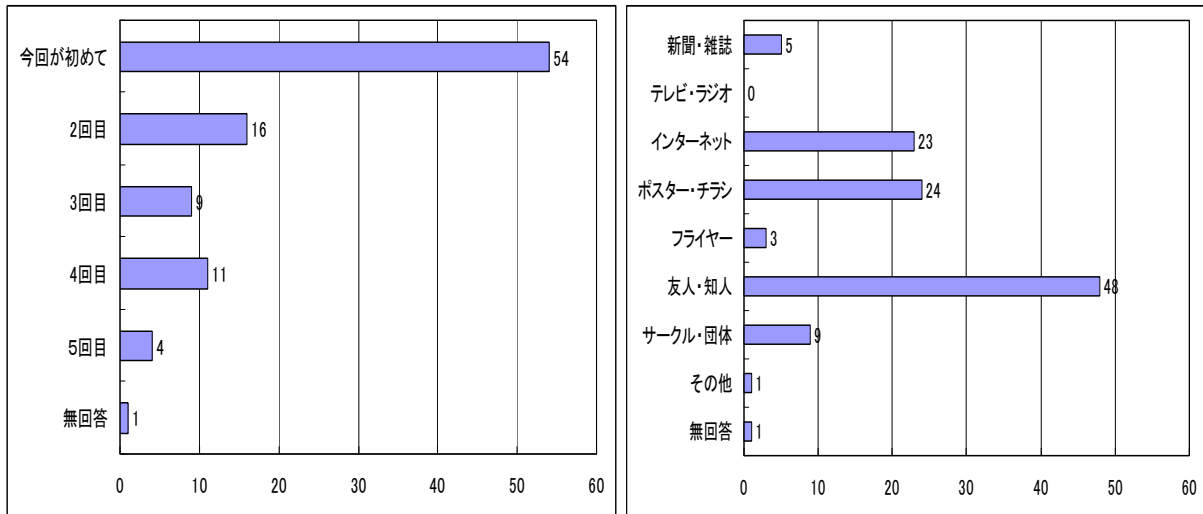
10/10(土)、10/11(日) J R 高松駅前にてチラシ配布。

6. アンケート結果 (2009/10/11 高松サンポート e-とぴあ・かがわ 回答数 95名)

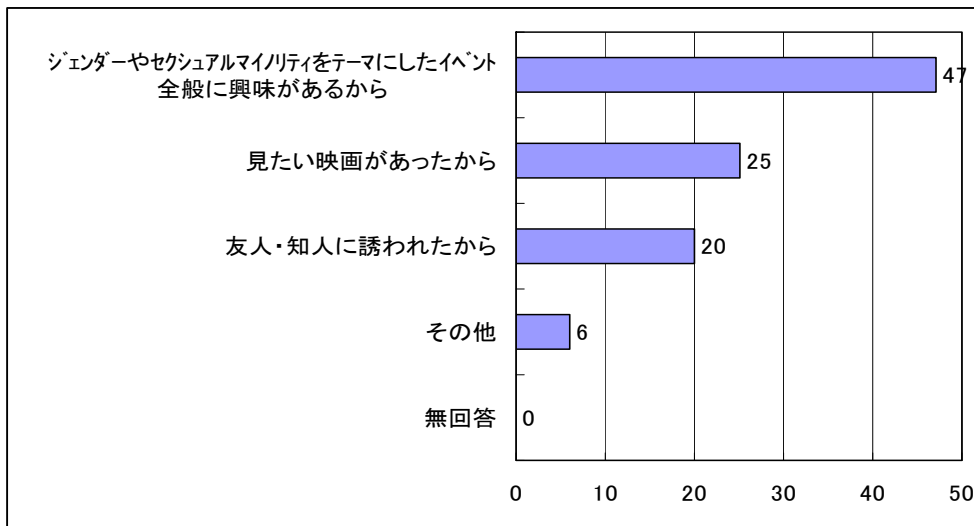
Q1 この映画祭にいらしたのは何回目ですか？

Q2 今回の映画祭を何でお知りになりましたか？

(複数回答あり)

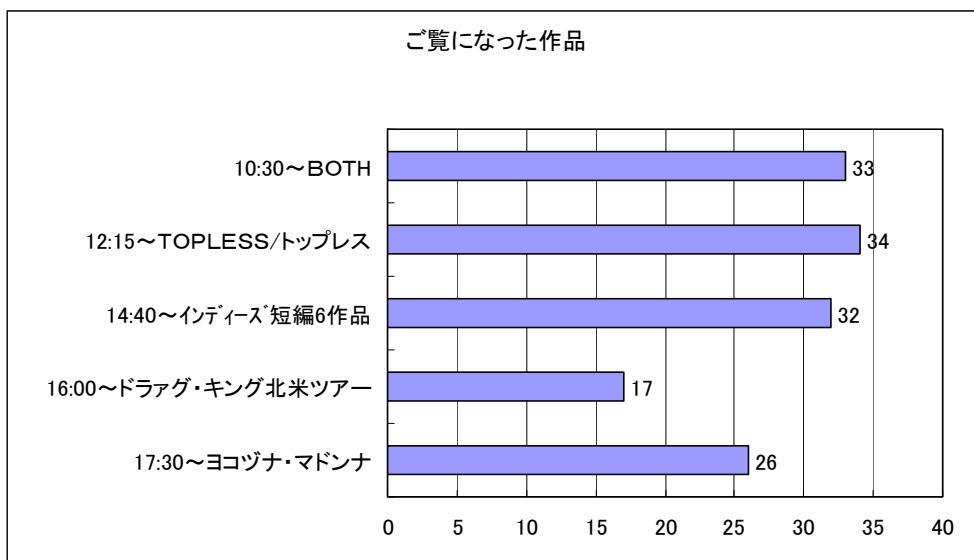


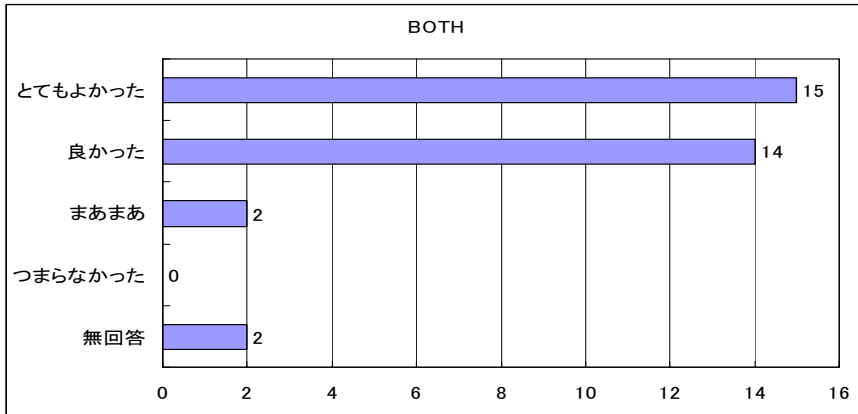
Q3 映画祭に来場された理由は何ですか？ (複数回答あり)



Q4 今回の映画祭のプログラムでご覧になったものは？

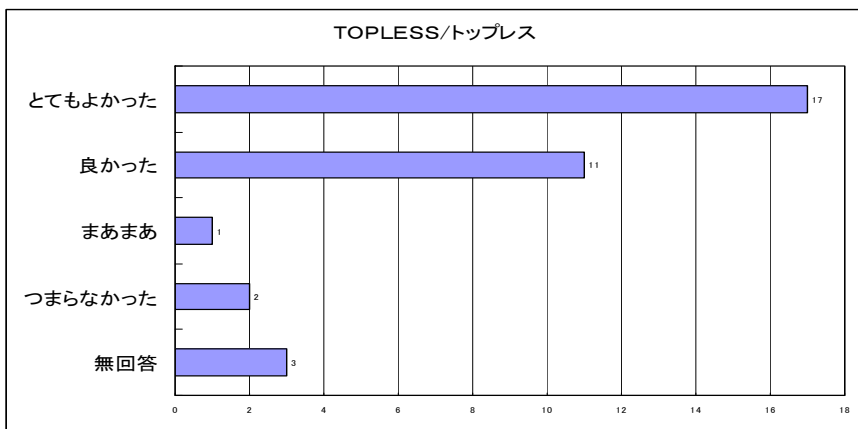
具体的なご感想があればお聞かせ下さい。(複数回答あり)





【BOTH】

- ・とても悲しくなった。でもいい映画だった。
- ・半陰陽について考えさせられました。もし自分がそうなら、もし自分が親なら、深く考えさせられます。
- ・彼女の姿と、まわりの家族の姿に感動しました。それぞれの思いがあるのだなあと。考えるきっかけになりそうです。
- ・自分が知らなかったことが知れて良かったし、自分が子供ができた時に今知っておくとまた深く考えることができ、本当に素晴らしい映画に出逢えたと思いました。
- ・まだ「BOTH」見ただけですが、これは良かった。
- ・半陰陽について初めて知った。
- ・すごく良かった。正直びっくりした。よい作品だった。
- ・考えさせる余地のある所が良かった。

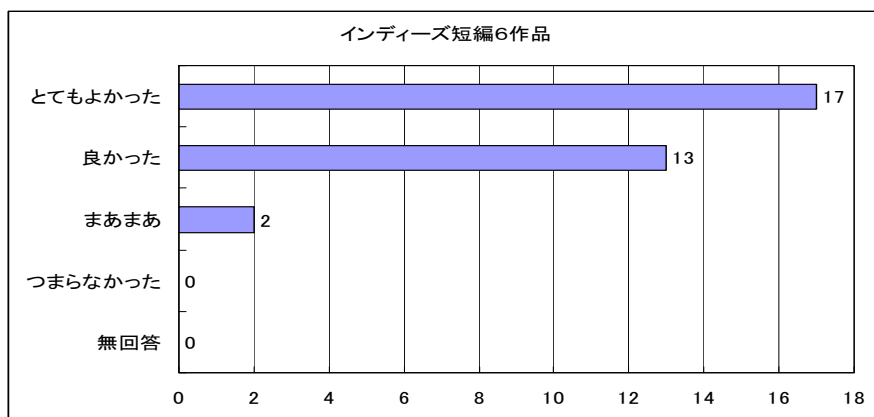


【TOPLESS/トップレス】

- ・希望が持てるハッピーな作品だった。
- ・清水さんが美しかった。
- ・主役の清水さんがとても良かった。こんなのおだやかな演技をする女優さんがいるのを知らなかった。映画は途中少しまのびしたところがあったけど、全体的には良かったと思う。ナツコとトモミがトイレ前で言い争うところがドキドキした。日本のピアン映画は今一つパンチがないものが多いけど、この作品はとても良かったと思う。清水さんちっちゃくてほそくておどろいた。スクリーンではでかかったのに。
- ・何々難しいテーマ、若い世代の方々が真剣に人生に生活に悩む問題かも。
- ・ゆるる感情の表現が良かった。
- ・主人公の気持ちに共感できました。
- ・いかにもヘテ男が作った感じがする。少女漫画そのまま。出演した人はみんな良かったのにストーリーがつまらない。①ピアン映画で結局見せられたのはヘテロセックス。②ピアンの主人公をなぐさめる力づけるは結局男。③男は出てくる女のイヤがることを絶対にしな。④政治的なことはつまらない。→すべてサイテーと思った。
- ・役者さんには、よく頑張って演技されているなあとと思った。しかし考えていない、底が浅い、何より愛

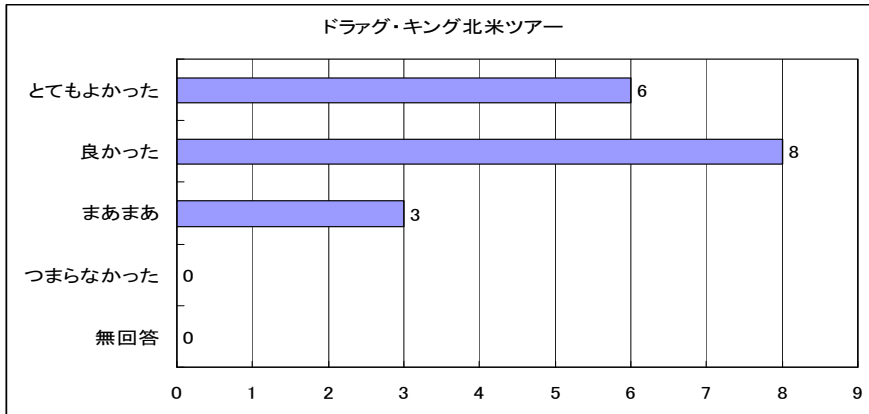
がないと思った。ヘテロの男性の感覚ですね…。つまり、「TOPLESS がどうして評価できないのか、オモロくないのかの理由」…登場人物にリアリティがない。レズビアンを自認している女が、なぜ男の家に転がり込むのか？ 高校生の女の子がなぜ制服のまま東京に出てくるのか？ また制服のまま町を歩きまわっているのか？ 中学生の頃からレズビアンと自認する主人公ならもう少し考えがあってもよかろう。また、女に転がり込まれた男に性欲はないのか？ 自宅でマスターベーションもしないのか？ 同居の女は男の使ったティッシュも見たことがないのか？ 最悪なのは主人公ナツコが孤独を感じ走って泣いている時、どこからか同居人男がやってきて、なだめるシーン。舞台は東京でナツコはセックスの相手には不自由していないようだが、まともに付き合う女は昔中学時代から付き合いしてきた女以外にいなかったのか？ 作中に出てくるセックスシーンといえば男女間の挿入セックスだけでしかも女は気持ち良いと言う。女・女のセックスは一度もなく、あれだけ自由奔放に描かれる女も、結局男とのセックスで「はじらう少女」でしかない。それから「権利」を主張する女の描き方がアホっぽい。あれだけイヤな女の描き方ができるのは不思議でさえある。結局、女は男なしでは生きていけません、男とのセックスの方がいいです、レズは暗くて悲しい人生を送るんですってことかなあ、言いたいことは…。そのどこのレズビアンを描いた映画なのか？

- ・人はもともとバイだしポリガミー生き物だと思ってます。LGBT も、そのカタチからあまり離れていないような…。ホモもヘテロでも…いつでもどこでもだれでも OKOK。(特定の人：と限定しない) がいいんじゃないかと思う。



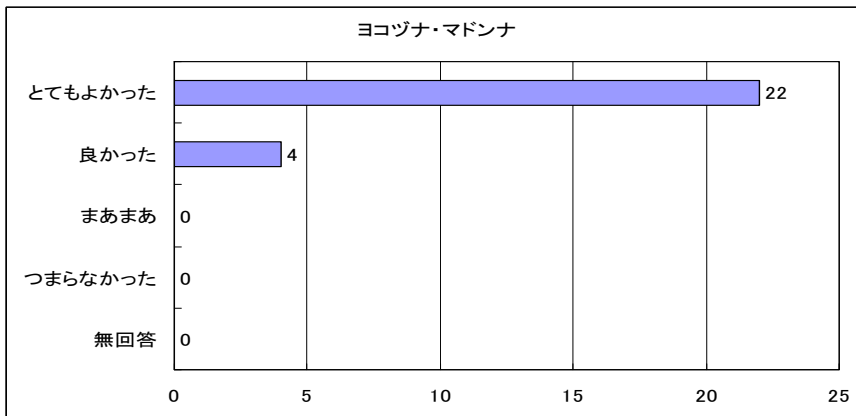
【インディーズ短編6作品】

- ・障害者ゲイの作品となにより「サンカク」が面白かった。とても 25 分の作品とは思えない素晴らしい出来映え！！カオルさん、素敵でした。ほんとに愛情にあふれた素晴らしい作品！！監督、貴方は偉大です！！
- ・一編目（わけられて）は自分にも同じ思いをしていたので、よく分かった。
- ・障害者というマイノリティーの立場からが、ハッとさせられることが多かった。
- ・どれも良かったが、特に最後の”サンカク”が良かった。同じ監督さんの作品が見てみたい。
- ・インディーズ作品の「サンカク」がとても良かったです。作品数が多いのですが、1本の時間が短く、もうちょっと長いのを半分くらい入れてほしかったです。
- ・漫画を見てみたいで楽しめました。
- ・どの作品もインディーズなのに、それぞれ面白かったです。
- ・インディーズの短編が楽しみでした。
分けられて—これからに期待。
ワン・ナイ・シット—良かった。作り方も良かった。
アンディのお守り—いかにもカナダやな—と思った。
オセロー—これもいかにもわかりすぎ。
Hibi-Chan—楽しかったです。
△サンカク—1番良かった。
- ・インディーズ…最後の1本はあまり…。あとはおもしろかった。



【ドラァグ・キング北米ツアー】

- ・元気が出た。レインボー映画祭がつづいていくことの大切さについても考えることができた。
- ・いま、むしようにひげが描きたい！
- ・内容は良かったが、字幕の間違いが気になった。



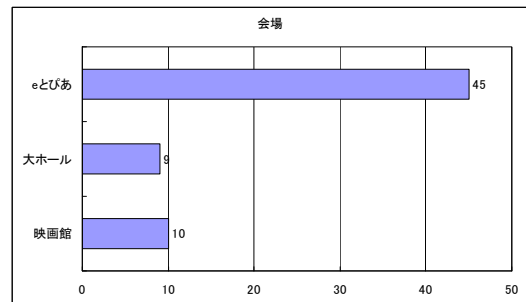
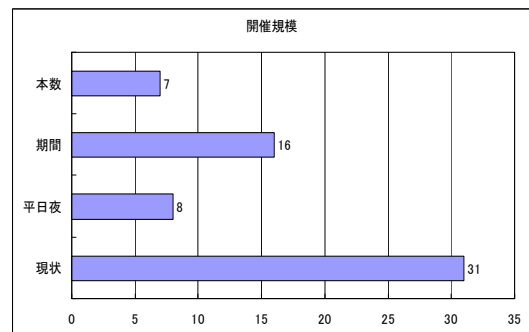
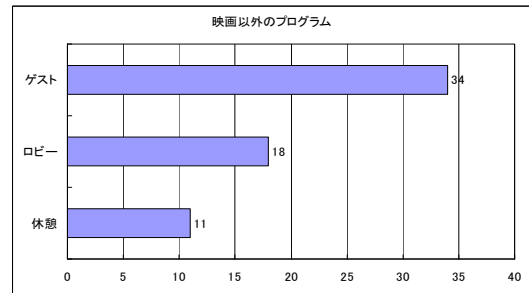
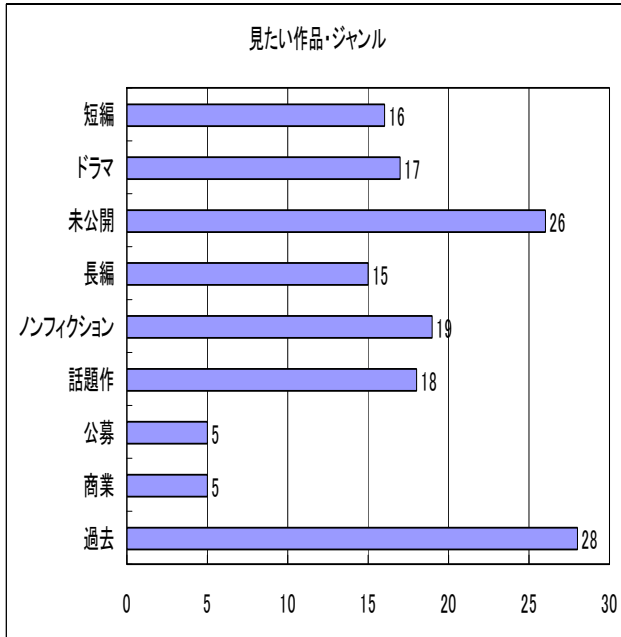
【ヨコヅナ・マドンナ】

- ・ヨコヅナ・マドンナをずっと見たかったので、よい機会でした。公募作品も、どれもおもしろかったです。もっと見てみたいと思いました。
- ・笑える所あり、少し辛い所ありでとても最後まで楽しく見ちゃいました。
- ・くさなぎ君が出ていたので驚きました。笑いあり涙ありの素敵な作品だと思いました！今回本当に腹から笑ったので凄く楽しい時間でした。セクマイの醍醐味がたくさん詰まった作品だと思いました。
- ・スポーツでの成功と最後のDQとしての成功が感動し涙が出ました！
- ・とにかく良かった！
- ・けっこう笑えた。てか大笑い。今まで参加しなかったこと、こうかい。
- ・楽しかった。
- ・もう一度ゆっくり観たい。時間がなくて1つだけしか観られなかったのが残念だ。

【複数プログラム、全体】

- ・BOTH・半陰陽に関して、あまり認識がなかったので勉強になった。TOPLESS、ドラァグはおもしろかった。
- ・ストーリー展開のスピードが両作品（BOTH、TOPLESS）ともに調度良く、ゲイやバイセクシャルの観点から見れる事が面白かったです。
- ・人の心を扱っている作品を見ることがうれしいです。ありがとうございます。
- ・あまりジェンダーについての事に接する機会がなかったので、映画を見て少しずつ理解が深まりました。おもしろかったです。
- ・すべて観たのですが、各映画順番や流れがすごく良く、色々知れて勉強になれたので来て良かったです。

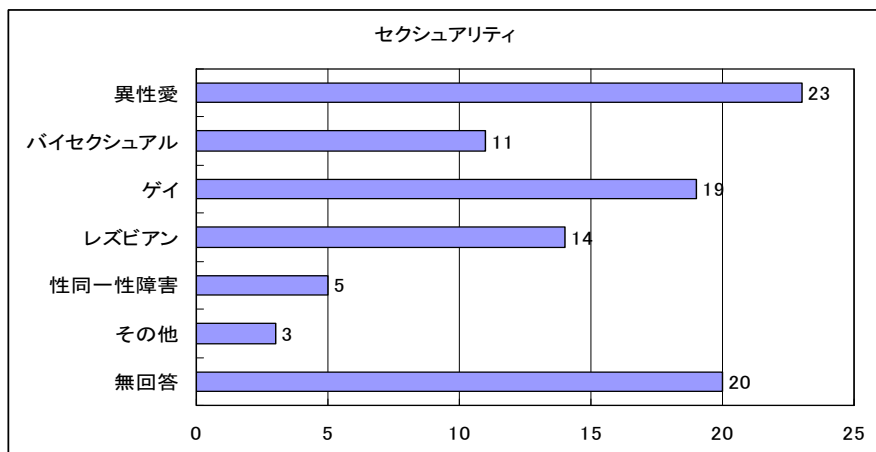
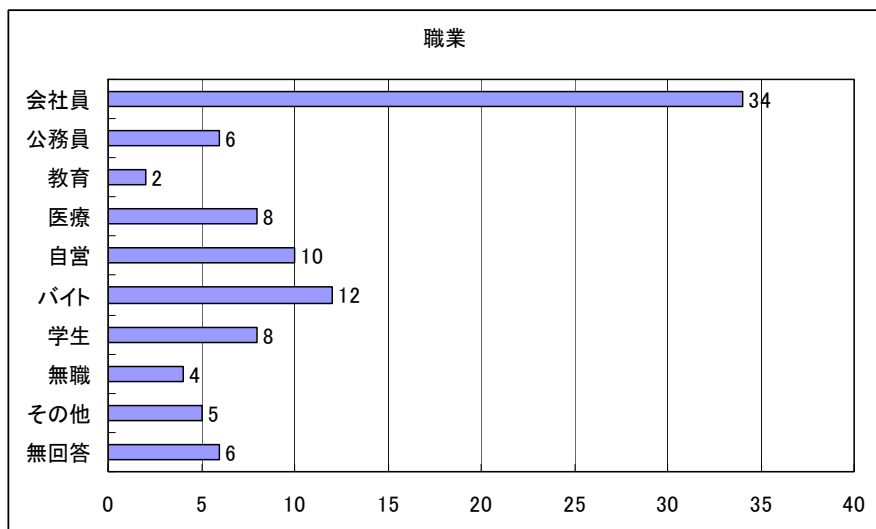
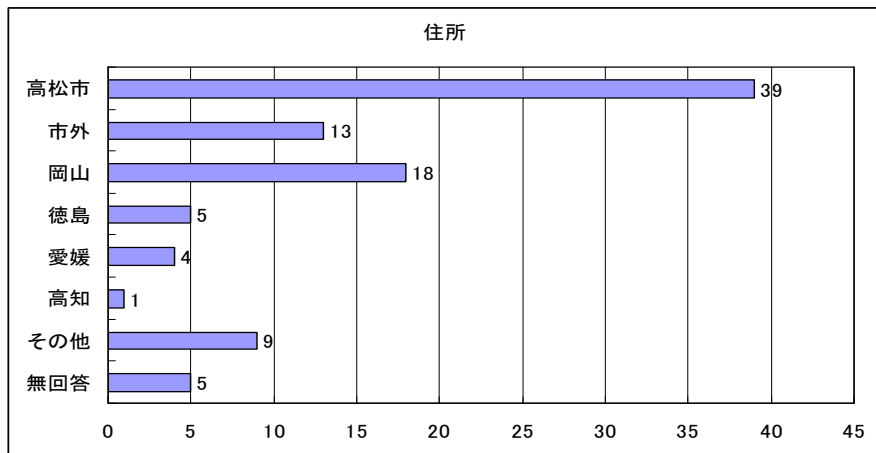
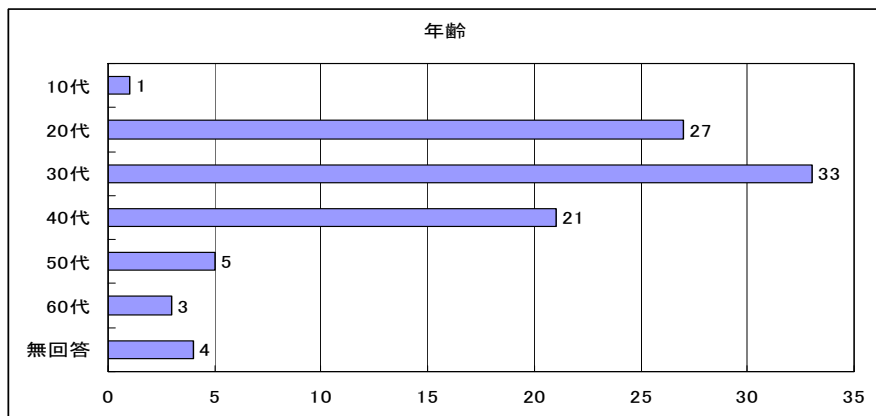
Q5 今後の映画祭にあなたが期待する事は何ですか？
 その他ご意見ご要望などをお書き下さい。（複数回答あり）



【映画祭へのご意見・ご要望】

- ・無料で見れるゲストトークを増やして欲しい。
- ・映画上映以外で、体験談等を聞けたら嬉しい。
- ・去年の初恋が見たかった。
- ・過去の名作を選んだ理由は、中にはレンタルで見つけにくいものもあると思うので（店員さんに聞きづらいです）昔の作品で良いものがあれば、ぜひ見たいです。
- ・娯楽性の高いものを充実させてほしいです！
- ・椅子が固いので座布団なんぞあれば・・・ぜひたくですね。
- ・字幕が見えにくかった。前の人の頭で。
- ・ポスターと同じデザインのTシャツがほしかったです！
- ・物販…スタッフさんたちが着てる絵のが欲しかったです。イベント…メールで問い合わせしました。せっかくなので映画祭のカフェがあれば良かったですね。もともと men's only だという店はあまり行きたくないし、ビアンバーはどこにあるかわからないし……。
- ・今回みたいに翌日が休みという日だと来れます。
- ・エアロ・モモとして参加。ありがとうございました。これからもがんばってください。
- ・エアロ・モモで参加。でも映画も楽しみですよ。
- ・素敵なイベントありがとうございました。
- ・本当に一日他の楽しませて頂きました。すてきなイベントをありがとうございました。
- ・スタッフの皆さんがあたたかくて、キビキビとやってらして良かったです。おつかれさまでした。
- ・スタッフのみなさま、お疲れ様です。高松まで来て良かったです！私が一番年長の参加者と思って来たけど、そうじゃなくてよかった……。いろんな映画をたのしみにしています。

Q6 あなたについて。



7. 会計報告

第5回香川レインボー映画祭実行委員会 会計報告書
(2009年1月1日～2009年10月30日)

	科目	予算	決算
収入	前回繰越	¥281,721	¥281,721
	チケット売上:前売券、当日券	¥200,000	¥175,500
	自己資金(会費及び賛助会費)	¥50,000	¥47,000
	寄付収入:個人、団体からの寄付カンパ	¥50,000	¥25,155
	協賛収入:お店、団体等の協賛	¥100,000	¥120,000
	広告収入:チラシ・チケット等広告料	¥100,000	¥140,000
	物品売上:会場での書籍、グッズ販売等	¥10,000	¥20,970
	春のぴ展 補助金 ※(収支別記)	¥80,000	¥80,000
	その他収入:利息		¥153
		収入合計	¥871,721
支出	会場費:上映会場、機材費込み	¥55,000	¥63,620
	作品上映料等:作品料、作品送料、ゲスト出演料等	¥200,000	¥220,895
	広告宣伝費:HP、チラシ、ポスター制作費、配布経費等	¥200,000	¥174,073
	物品仕入れ:会場での書籍、グッズ販売等	¥10,000	¥22,143
	スタッフ費:駐車料金・広報活動費等	¥50,000	¥52,990
	資材・教材費:研修会・試写会費用	¥10,000	¥11,138
	春のぴ展 上映料他 ※(収支別記)	¥80,000	¥80,000
	その他:事務用品、記録費、手数料等	¥100,000	¥71,155
		支出合計	¥705,000
収支	繰越金:次回の実行委員会へ繰越	¥166,721	¥194,485

映画「ハーヴェイ・ミルク」上映とトークセッション会計報告書
2009年3月22日(日)実施

	科目	予算	決算
収入	春のぴ展 補助金(eーとぴあ文化祭 2009 参加事業)	¥80,000	¥80,000
	収入合計	¥80,000	¥80,000
支出	映画「ハーヴェイ・ミルク」DVD上映料	¥53,000	¥53,000
	トークゲスト出演料	¥10,000	¥10,000
	司会者出演料	¥10,000	¥10,000
	ミニチラシ印刷代(A5 400枚)	¥5,000	¥5,000
	DVD送料等	¥2,000	¥2,000
	支出合計	¥80,000	¥80,000
収支		¥0	¥0

8. 総括

◎開催までの経緯と目標

広く一般に向けて、セクシュアル・マイノリティ(同性愛、性同一性障害など)に関する偏見や誤解を解き、正しい理解を広めていくために、それらをテーマにした映画を上映する「香川レインボー映画祭」を2005年より毎年開催している。

5回目となる今年も、性とライフスタイルの多様性への理解を深めていただけるような10作品を厳選した。また今回は特に、映画祭自体の認知度を高めることを目標とした。

◎今回の取り組みと成果

1. 「かがわ文化芸術祭2009」の参加公演・行事に加わったことにより、多方面からの後援や広報の機会に恵まれた。その結果、認知度が上がり、問い合わせがこれまでの3倍に増えた。映画祭に関する問い合わせ以外に、当事者からの相談もあった。
2. 協賛については、広告協賛に加え、物品協賛も提案し、依頼先を拡大した。その結果、様々な企業・団体から協賛をいただき、件数もこれまでで最多だった。

◎観客の声と今後の課題

1. 観客の皆様、鑑賞後アンケートにご協力いただいた結果、次のような回答をお寄せいただいた。
また、前回よりも多くの回答をいただくことができた。
事実に基づいた作品「BOTH」は少なからず衝撃をもたらし、インター・セックス(半陰陽)について考えるきっかけとなった。
「ワン・ナイト・シット」では、ダブル・マイノリティ(同性愛の障害者)の存在と現実を知った。
「ヨコヅナ・マドンナ」は涙あり笑いありのストーリーで多くの観客を感動させた。
様々なレズビアンを描写した「TOPLESS」では、上映後のゲスト・トークで作り手の思いを聞くことが出来た。
作品によっては、一部の観客から辛辣な意見もいただいた。
2. 当映画祭は、マジョリティに向けて発信することでマイノリティの立場を向上させたいという思いで開催している。
少しでも多くの方に共感していただけるよう、作品選定には毎回精魂を傾けているが、万人に受け入れられる作品をとの思いは、毎回困難を極める。
しかし、その上で、手厳しいご意見も真摯に受け止めて、次回への課題としたい。
3. 以上の結果から、観客のニーズを知り、また応えるためにも、次回はアンケート回収にさらに力を入れたい。

◎今後の展望

多くの方々からご支援、ご協力をいただき、盛大に第5回を記念する映画祭を開催することができた。関係者の皆様に深く感謝の意を申し上げる。

この5年間を振り返ると、当映画祭の趣旨に賛同し、協力してくださる人や参加してくださる人の輪が徐々に広がっているのが分かる。今後も広く認知されるよう、いろいろなところと繋がりを持ち、周知に努めたい。ゆくゆくは、セクシュアリティの枠を越えて様々な人が交流できるイベントとなっていくよう取り組んでいきたい。

(第5回香川レインボー映画祭 実行委員長 藤田博美)